

幕末維新の歴史

1853年 7月ペリー来航

1858年 4月 井伊大老就任 安政の大獄

7月 島津斉彬急死

11月 西郷、月照と共に入水 西郷 30歳、翌年1859年1月奄美大島に島流し(3年)

1860年 3月 桜田門外の変

1862年 2月: 西郷 許されて鹿児島に戻る。

4月 久光率兵上京、西郷随行するも久光の逆鱗に触れ、再度島流し。

4月 寺田屋騒動が起こる。(西郷危惧した通り)

8月 沖永良部島 牢屋は2坪。4面は丸太で格子状に組まれ、壁もなく吹きさらし。

太陽の熱と蚊の大群、冬は雨と波しぶき等で衰弱。

12月中旬 座敷牢に移る(土持政照 28歳の計らい)

1862年 4月: 生麦事件が起こる。

1863年 7月: 薩英戦争

1863年 8月 18日の政変: 過激尊攘派京都から一掃、七公卿は長州に逃げる。

1864年 2月 西郷許されて鹿児島へ帰還[山川港船中2ヶ月、徳之島70日、沖永良部1年6ヶ月]

切腹覚悟の黒田嘉右衛門、伊地知正治が代表して、久光に西郷赦免請願提出。 朝廷からも近衛家を通して西郷赦免要望が久光にもたらされた。(西郷 36歳)

3月 上京命じられ軍賦役。小松・大久保と共に薩摩藩軍事外交指揮官。

1864年 7月: 長州藩が京都を攻めて禁門の変、薩軍指揮し負傷する。

10月 第一次長州征伐で大活躍

1865年 1月: 高杉晋作が馬関を占領し長州藩の藩論を倒幕でまとめる。

1866年 1月: 薩長同盟の密約が成立

1866年 6月: 第二次長州征伐が始まる。

6月 徳川慶喜、四侯会議(松平慶永、島津久光、山内豊信、伊達宗城)を制す。

薩摩藩武力討幕の方針固める。

1867年 10月 討幕の密勅(なるもの)が薩摩藩と長州藩に下る。(天皇16歳)

10月 徳川慶喜、大政奉還。朝廷、これを受けて、薩長に倒幕の実行延期の沙汰書を下す。

(徳川慶喜戦略案: 天皇を君主、自分は上院議長=総理大臣)

11月) 坂本龍馬、中岡慎太郎暗殺される。

12月) 王政復古(クーデター)の発令: 薩摩・尾張・越前・土佐・芸州ノ兵御所門を固め、明治天皇隣席の下、江戸幕府廃止、天皇親政の名の下、岩倉ら一部の公家と五大名家が主導する新政府を成立・宣言する。

同日 小御所会議(土佐・越前・尾張対岩倉・薩摩)で紛糾: 徳川家の扱いについて山内豊信らが徳川慶喜の出席と慶喜を議長とする諸侯会議の政体を主張、これに対し、岩倉らは徳川政権の失政を並べ「辞官納地」と主張する。外で兵を指揮していて西郷発言(短刀1本あればけりがつく)により、徳川慶喜の辞官納地決定。

1867年 12月 徳川慶喜、二条城を退去。翌日大坂城に到着

12月 薩摩藩江戸藩邸焼き討ち (江戸における薩摩挑発と幕府の暴発)

上記江戸情報が大阪城に届くと薩摩討つべしの幕府主戦論急激に台頭、鳥羽伏見の戦いに突入

1868年 1月 鳥羽・伏見の戦い。(薩摩長州等4500兵、幕府 15,000 兵＝薩摩長州勝利)

1月 徳川慶喜、大坂城を脱出、海路江戸に戻る 4月 江戸城無血開城

9月 会津藩降伏 庄内藩降伏

1869年 5月 榎本武揚、新政府軍に降伏 (戊辰戦争は 1868年 1月日 鳥羽・伏見の戦いから 1869年 5月箱館戦争終結まで)。

1871 (明治 4) 7月 廃藩置県

1871 (明治 4) 年 11月: 岩倉具視らが欧米に出発する (岩倉使節団)。

1873 (明治 6) 年 8月: 西郷隆盛の朝鮮派遣を決める。

1873 (明治 6) 年 9月: 岩倉具視らが帰国する。

1873 (明治 6) 年 10月: 明治 6年政変、西郷隆盛・板垣退助、江藤新平らが参議をやめて下野する。

1874 (明治 7) 年 5月: 台湾に出兵

1875 (明治 8) 年 9月: 江華島事件が起こる。

1877 (明治 10) 年 1月: 西南の役起こる。

1877 (明治 10) 年 9月: 西郷隆盛が自決し、西南の役終了。

以上

西南の役概要

1) 西南の役 (明治10年)

- 2月15日 薩軍50年ぶりの大雪の中を鹿児島出発。総兵力3万人 (桐野利秋他薬丸流門人多数)
- 2月21日 熊本城攻撃 その後の田原坂の興亡
- 8月17日 可愛岳 (えのだけ) 包囲突破 600名 (大分県延岡市) (延岡往復400km)
- 9月1日 鹿児島帰着 370名
- 9月24日 城山にて西郷自刃 7ヶ月の西南戦争終了

2) 直接の原因

- ① 明治10年1月、警視庁大警視川路利良が中原尚雄以下24名の警察官 (郷土) を、「帰郷」の名目で鹿児島へと派遣。目的は刺殺 (西郷隆盛刺殺) か視察 (私学校の内部偵察と離間工作) か?
- ② 明治10年1月30日、私学校生による鹿児島城下草牟田の陸軍火薬庫を襲撃事件
政府は鹿児島にあった陸軍火薬庫、武器・弾薬並びに弾薬製造機を夜陰に乗じて三菱の船をまわして、大阪に移送しようとした。之に激昂した一部の私学校生徒達が、鹿児島城下草牟田 (そうむた) にあった陸軍火薬庫を襲撃し、そこから多量の武器・弾薬などを奪う事件。これが西南の役勃発のきっかけ。

3) 西南の役における 勝敗を分けた 両軍武器比較 (敬天愛人27号より)

薩軍	旧式	エンピードル銃 (1分間1発)	1.1万	(火薬湿ると打てない)
	銃弾	150万発		
	大砲	60門		
政府軍	新式	スピンドル銃 (1分間6発)	1万	(雨の影響うけにくい)
	旧式	エンピードル銃	3.6万	
		計	4.6万	
	銃弾	国内 1330万発	輸入 1000万発	計 2330万
	大砲	190門	軍艦13隻	

注) 田原坂の戦い: 明治10年3月20日早朝 最後の戦いの日 豪雨
政府軍は 新式 雨の影響うけにくい スピンドル銃 (1分間6発) を活用
開戦以来最大の兵力投入。 薩軍は雨のため小銃不発、応戦遅れ、

4) 西南戦争、両軍戦死者 薩軍焼6000人 (総兵力3万) 政府軍約6000人 (総兵力6万)



隈元泰弘 記

